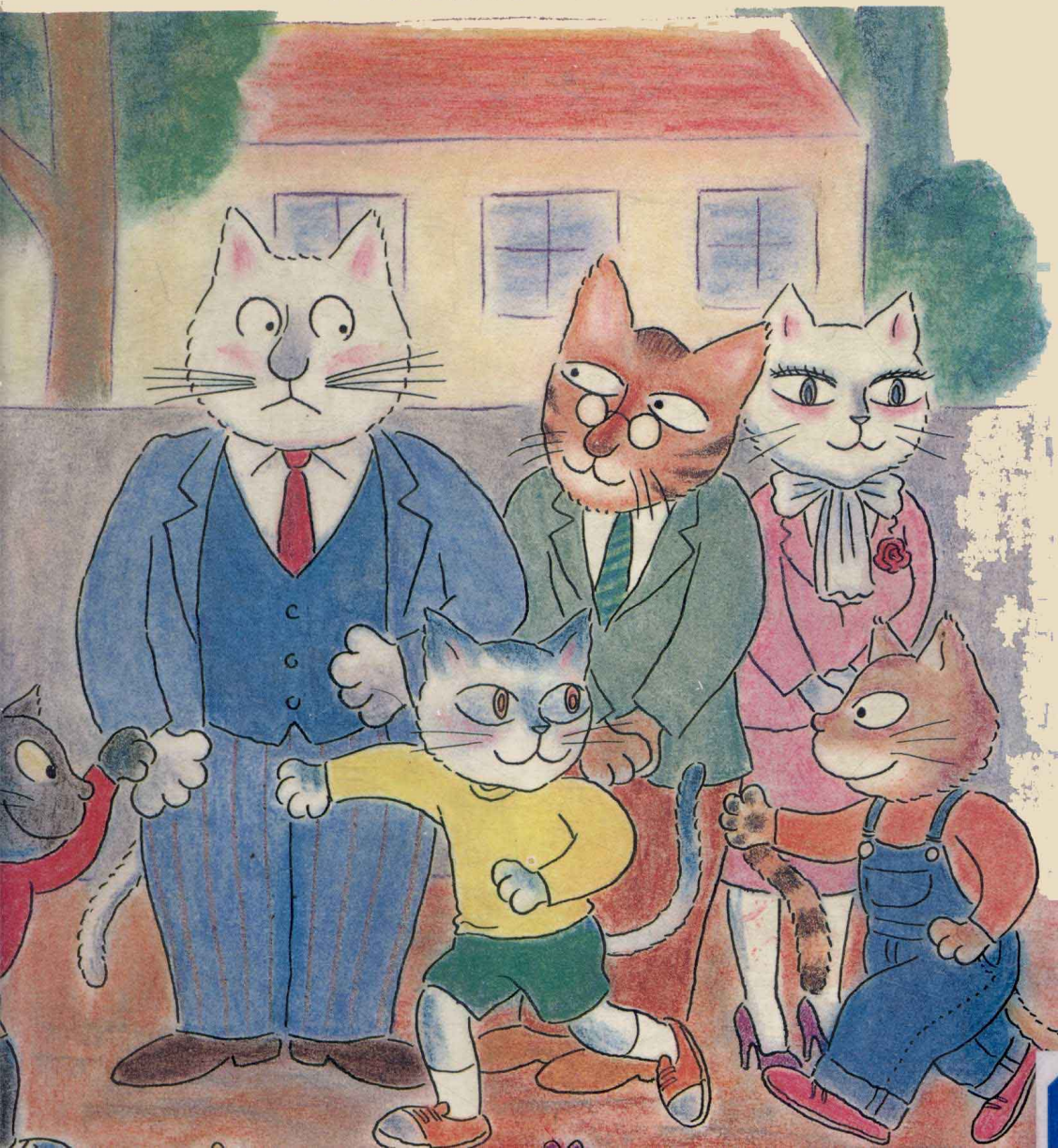


ゆかいな ネコカブリ小学校

三田村信行・作 佐々木マキ・絵



ゆかいなネコカブリ小学校

NDC913 三田村信行・佐々木マキ
ゆかいなネコカブリ小学校
1982 PHP研究所
PHP創作シリーズ
172P 22cm
みたむらのぶゆき・ささきまき

1982年 6 月10日 第一刷

著者 三田村信行
画家 佐々木マキ
発行者 江口克彦
発行所 PHP研究所

〒601 京都市南区西九条北ノ内町11

電話 075(681)4431・東京事務所 03(295)9211

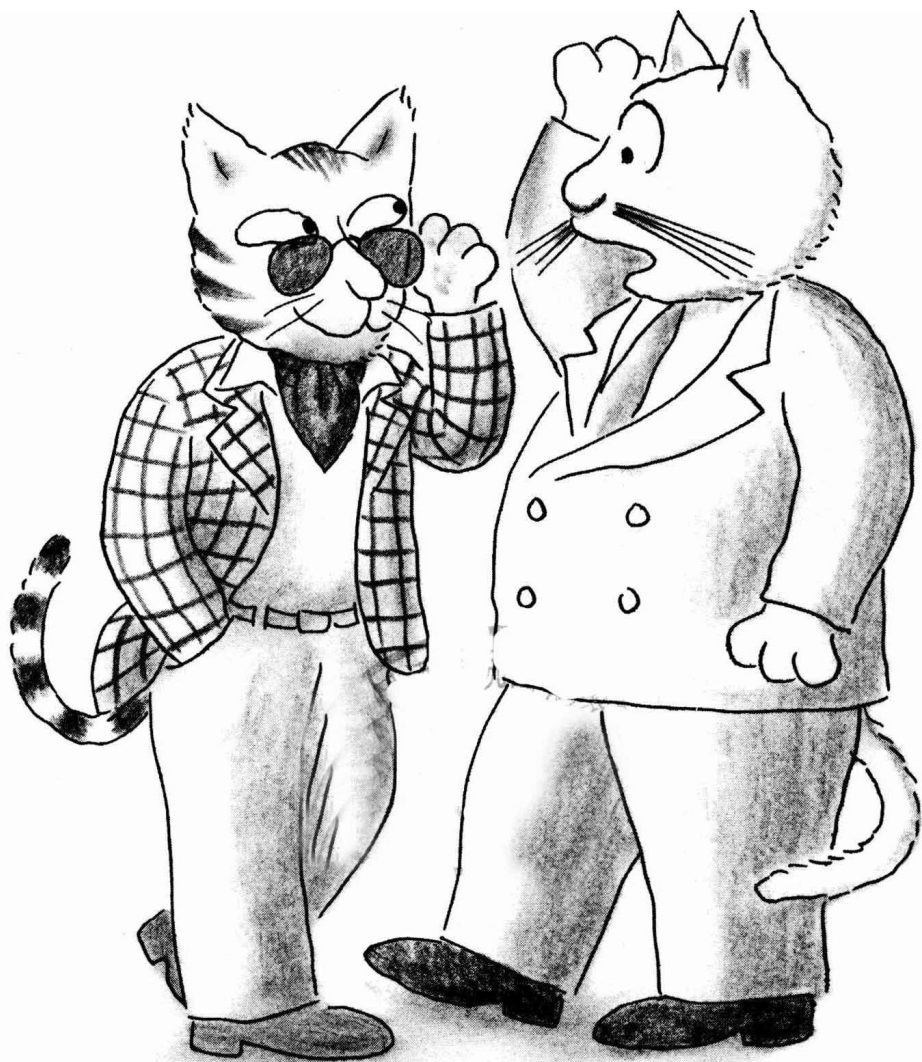
印刷所 東洋印刷株式会社
製本所 和田製本工業株式会社

©1982 Nobuyuki Mitamura & Maki Sasaki. Printed in Japan

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

二田村信行・作 佐々木マキ・絵

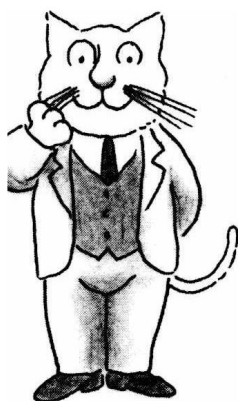
ゆかいなネコカブリ小学校



も

く

じ



校長先生のにお絵かき……7

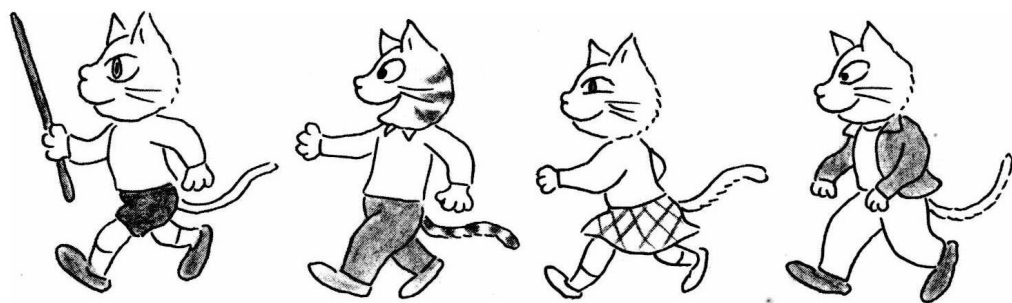
アウトかセーフか……35

おかしなおかしなゆうかい事件……67



恋はスポーツカーにのって……
109

天才がやってきた……
139



作家・三田村 信行(みたむら・のぶゆき)

1939年東京に生まれる。早稲田大学文学部卒業。文・筆業。作品に、『オオカミがきた』(理論社)『すっとびぎつね』『サインはきつねボール』(以上偕成社)、本書画家との作品に、『風を売る男』『ねこのネコカブリ小学校』(以上PHP研究所)などがある。

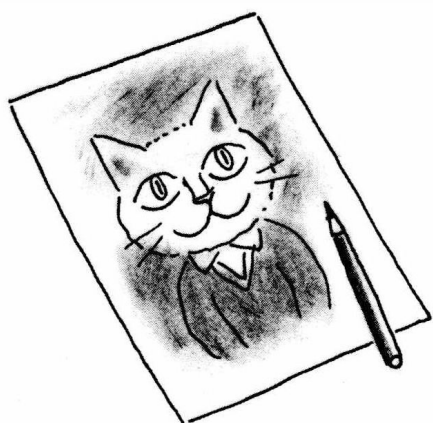
現住所 町田市鶴川1-4-2

画家・佐々木 マキ(ささき・まき)

1946年神戸市に生まれる。京都市立美術大学に学ぶ。漫画家。自作の絵本に、『やっぱりおかみ』『ムッシュ・ムニエルのサーカス』(以上福音館書店)『ねむいねむいねずみ』『ねむいねむいねずみはおなかがすいた』『あそぼうよセイウチ』(以上PHP研究所)などがある。

現住所 京都市伏見区深草出羽屋敷23-10
ファミール伏見B棟509号

校長先生のにお絵かき



ネコヤナギ市ネコゼ区ネコジタ町字ネコカブリにあるネコカブリ第三小学校の校長先生のまいあさのたのしみは、学校の校長室でその日の朝刊をよむことでした。

なにしろ、おさけがだいすきな校長先生でしたから、まいばんおそくまでおさけをのんで、十二時まえにねることなんてめったにありません。したがって、朝は学校がはじまるぎりぎりまでねています。

ですから、目ざましであわててとびおきると、服をきがえ、冷蔵庫からさかなのソーセージをひっぱりだしてポケットにつっこみ、新聞うけからとりだした新聞をこわきにかかえて、あたふたと学校にかけつけるのがせいじっぱい。

さいわい、校長先生の家は学校のうらてにあるので、ちこくしたことはめつたにないのですが、学校につけばついたで、朝礼やらなにやらがあつて、とても新聞をよむどころではありません。

いちだんらくつくのはいつも十時ごろのことで、それからやつと、校長室の大きなひじかけいすにこしをおちつけ、さかなのソーセージをほりほりかじりながら、新聞

をよみはじめるといったわけなのです。

校長先生にとつて、この時間が学校にいるあいだいちばんくつろげる時間なので、わしが新聞をよんでいるあいだは校長室にはいりしてはいかと、ほかの先生たちにもうしわたしてあるくらいです。もともと、夜明けごろまでおさけをのんでねぶそくぎみのときなどは、新聞やソーセイジなんかには目もくれずに、テーブルにほつぺたをくつつけてぐうぐうねむっていることもありましたが――。

さて、三学期がはじまってまもないある朝のことです。いつものようにソーセイジをかじりながら朝刊をよんでいた校長先生は、とつぜん、

「ふむむ!!」

と声をあげると、大きな目をぐっと新聞に近づけました。そして、しばらくのあいだすいよせられるようにそこに書かれていた記事きじをよんでいましたが、やがて、

「ふーん、なるほどなあ。」

と、すっかり感心かんしんしたように、くいつとひげをひっぱりました。

「なにを感心なさってるんです。」

といいながら、そのとき、教頭先生きやうとうせんしやうが校長室にはいつてきました。

もちろん教頭先生も、校長先生のもうしわたしを知っていました。が、ときどきそんなことはわすれたふりをして、校長先生が新聞をよんでいるさいちゆうに、ふらつと校長室にはいつてくるのです。

教頭先生は校長先生よりも年上で、この学校にもながくとめていましたから、そんなことができるのです。あるいは、教頭先生は、自分のほうがせんぱいだということを校長先生にわからせるために、わざといいつけをまもらなかつたといったほうがいいかもしれません。

それはともかく、教頭先生がはいつてきたのを見ても、校長先生は、
「おや、きみか。」

といっただけで、べつに気にするようすありませんでした。いつもならふゆかいそうにまゆをしかめるところでしたが、よつぽど新聞記事きじに氣をとられていたものとみえます。

「これをよんでみたまえ。」

校長先生は、自分がよんでいた記事を指さしながら、新聞を教頭先生のほうにおしやりました。

「なにかおもしろいことでも書いてあるんですか。」

教頭先生は、新聞をとりあげて、その記事に目をとめました。

それは、ある小学校の校長先生が、その年卒業する六年生全員に、記念としてひとりひとりのが絵をかいてやつておくり、たいへんよろこばれているという記事でした。

「なるほど。これに感心されたわけですか。」

教頭先生はにやつとわらうと、新聞を校長先生の手もとにもどしました。

「そういえば、おなじようなことをしている校長さんが、テレビでようかいされていたのをまえに見たことがありますよ。」

「へえ、そいつは知らなかった。いいことはだれもがするとみえるな。わしもさつそくみならうでしょう。」

「えっ、校長先生がですか？」



「そうだよ。わしにだってこのくらいのことはできるとおもわんかね。」

「そうですねえ。まあ、おできにならないことはないでしょうが……。」

教頭先生は、めがねをひたいの上にずりあげると、じろりと校長先生を見あげました。

「おや、きみはわしのうでをうたがうのかね。」

校長先生の目がキュツとつりあがりました。校長先生は、絵には自信じしんがある（と自分ではおもいこんでいた）のです。

教頭先生は、校長先生にいらまれて、あわてて目をばちばちさせました。

「いえいえ、校長先生の絵がおじょうずなことは、学校中のものが知っています。ただ、いまからはじめてまにあうかな、とおもったものですから。」

「なに、さっさっさつとかいていけば、そんなに時間はかからん。卒業式そつぎようしきまでにはじめるぶんまにあうさ。」

そこで校長先生はぐつとむねをはりました。

「うん。卒業記念きねんに本人のにお絵をかくておくというのは、なかなかいいおもしろい。みんなわしの絵をもらえば大よろこびするだろう。そして、わしのことをいつまでもなつかしくおもいだしてくれるにちがいない。そうだ、うまくいったら、これからまいとしつづけることにしよう。どうだね、教頭くん。」

教頭先生は、めがねをずりあげ、上目づかいに校長先生を見あげただけで、なんにもいいませんでした。

その日の放課後ほうかご、さっそく校長先生は、六年一組の生徒を五人、校長室によびよせると、テーブルの前にすわらせて、ひとりひとりのにお絵をかきはじめました。

ひとり二十分ぐらいずつで顔のりんかくをかきあげると、生徒をかえし、あとはひ

とりひとりの写真を見ながら、あちこちかきたしてしあげていくのです。

じつをいうと校長先生は、これまで草花やくだものしかかいたことがなく、にがお絵なんてかくのははじめてでした。ですから、ほんとうはうまくいくかどうか自分でも心配だったのですが、やってみると意外にすらすらとかけるので、すっかりうれしくなっていました。

「こりゃあ、ひよつとするとわしは天才かもしれんぞ。校長なんかさりとやめて、えかきになつたほうがいいかもしれん。」

なんてぴくぴく鼻をうごめかしながら、かきかけのにお絵を家にまでもってかえって、おさけをのむのもわすれてせつせとふでをはしらせました。

こまつたのは六年生のうけもちの先生たち。すっかりにお絵かきにむちゆうになつて、放課後までまてなくなつた校長先生が、授業中の教室にのこのこやってきて、生徒たちの顔をかきはじめたのです。

「なんとか校長先生のがお絵かきをやめさせてくださいよ。授業中にやってこられたんじゃ、生徒の気がちつて、授業がうまくできないんです。」

六年生の先生たちは、そろって教頭先生にうったえましたが、教頭先生は、

「まあいいじゃないですか。ほうっておけば、あの校長先生のことだから、そのうちあきて自分からやめるようになるにきまっています。」

と、にやにやわらうばかりでした。

ところが校長先生は、あきるところか、ますます熱心になつて、一組がおわるとすぐつづいて二組の生徒たちのにお絵にとりかかりました。

できあがつたにお絵は、卒業式のときにわたすつもりで、だれにも見せずに校長室の金庫きんこの中にしまっておきました。金庫の中の絵がふえていくにつれて、校長先生はだんだんおちつかなくなってきました。卒業式までとてもまっではいられなくなつたのです。

いますぐ生徒たちにわたして、よろこぶ顔が見たい——というより、早くみんなに見せて、うまいな—と感心かんしんしてもらいたくなつたのです。

「ええい、卒業式でわたすのも、いまわたすのも、おんなじことじゃないか！」
そうけつしした校長先生は、金庫からできあがつたにお絵をとりだすと、つぎ